

	と			
がんの予防	<p>発がんリスクの低減を図るため、たばこ対策について、すべての国民が喫煙の及ぼす健康影響について十分に認識すること、適切な受動喫煙防止対策を実施すること、未成年者の喫煙率を0%とすること（3年内）、さらに、禁煙支援プログラムのさらなる普及を図りつつ、喫煙をやめたい人に対する禁煙支援を行っていくこと</p>	<p>○喫煙が及ぼす健康影響についての十分な知識の普及（知っている人の割合）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肺がん 87.5%（平成 15 年国民健康・栄養調査） <p>○未成年者の喫煙率（喫煙している人の割合）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性（中学 1 年） 3.2% ・男性（高校 3 年） 21.7% ・女性（中学 1 年） 2.4% ・女性（高校 3 年） 9.7% <p>（平成 16 年度未成年者の喫煙および飲酒行動に関する全国調査（平成 16 年度厚生労働科学研究））</p>	<p>○喫煙が及ぼす健康影響についての十分な知識の普及（知っている人の割合）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肺がん 87.5%（平成 20 年国民健康・栄養調査） <p>○未成年者の喫煙率（喫煙している人の割合）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性（中学 1 年） 1.5% ・男性（高校 3 年） 12.8% ・女性（中学 1 年） 1.1% ・女性（高校 3 年） 5.3% <p>（平成 20 年度未成年者の喫煙・飲酒状況に関する全国実態調査結果（平成 20 年度厚生労働科学研究））</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○たばこ対策の強力な推進 ○喫煙の健康影響に関する国民の認識 ○未成年者の禁煙対策の推進 ○未成年に接する者に対する喫煙調査の実施 ○受動喫煙防止の実態把握 ○禁煙や分煙対策をしている事業所、公共の施設の実施状況について情報収集
	<p>健康日本 21 に掲げられている「野菜の摂取量の増加」、「1日の食事において、果物類を摂取している者の増加」及び「脂肪エネルギー比率の減少」</p>	<p>○野菜の摂取量の増加（1日あたりの平均摂取量）成人 303g （平成 18 年国民健康・栄養調査）</p> <p>○1日の食事において、果物類を摂取している者の増加（摂取している人の割合）成人 63.5% （平成 16 年国民健康・栄養調査）</p> <p>○脂肪エネルギー比率の減少（1日あたりの平均摂取比率）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20～40 歳代 26.7% <p>（平成 16 年国民健康・栄養調査）</p>	<p>○野菜の摂取量の増加（1日あたりの平均摂取量）成人 295g （平成 20 年国民健康・栄養調査）</p> <p>○1日の食事において、果物類を摂取している者の増加（摂取している人の割合）成人 60.0% （平成 18 年国民健康・栄養調査）</p> <p>○脂肪エネルギー比率の減少（1日あたりの平均摂取比率）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20～40 歳代 27.1% <p>（平成 18 年国民健康・栄養調査）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○食育との共同推進
がんの早期発見	<p>がん検診の受診率について、欧米諸国に比べて低いことも踏まえ、効果</p>	<p>○がん検診の受診率</p>	<p>○がん検診の受診率 【平成 22 年 6 月】 （調査結果は平成 23 年度中公表）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○市町村でのがん検診受診率とともに、職域の受診率の把握と推進 ○各企業に、がん検診の正しい情報の提供

	<p>的・効率的な受診間隔や重点的に受診勧奨すべき対象者を考慮しつつ、50%以上（乳がん検診、大腸がん検診等）とすること（5年以内）</p>	<p>【平成16年】 ＜男性＞ 胃がん：27.6% 肺がん：16.7% 大腸がん：22.2% ＜女性＞ 胃がん：22.4% 肺がん：13.5% 子宮がん：20.8% 乳がん：19.8% 大腸がん：18.5% (国民生活基礎調査)</p>	<p>【平成19年】 ＜男性＞ 胃がん：32.5% 肺がん：25.7% 大腸がん：27.5% ＜女性＞ 胃がん：25.3% 肺がん：21.1% 子宮がん：21.3% 乳がん：20.3% 大腸がん：22.7% (国民生活基礎調査)</p>	<p>と協力要請の実施 ○小中高校生に対するがん検診の普及啓発 ○女性特有のがん検診推進事業による個人への受診勧奨とその効果に対する検討 ○がん検診受診者名簿の推進と活用 ○自治体や医療機関に対するがん検診受診率向上に係る研修の実施 ○がん検診ハンドブックの普及啓発</p>
	<p>すべての市町村において、精度管理・事業評価が実施されるとともに、科学的根拠に基づくがん検診が実施されること</p>	<p>①精度管理・事業評価を適切に実施している市町村の割合 (厚生労働科学研究の研究班調べ) 事業評価のためのチェックリストの大項目を8割以上実施している自治体 【平成19年度】 胃がん：57.9% 肺がん：50.8% 子宮がん：54.8% 乳がん：55.7% 大腸がん：53.6%</p> <p>②国の指針に基づくがん検診を実施している市町村の割合 胃がん：99.7% 子宮がん：99.6% 肺がん：90.1% 乳がん：83.5% 大腸がん：98.9% 【平成18年1月1日】</p>	<p>①精度管理・事業評価を適切に実施している市町村の割合 (厚生労働科学研究の研究班調べ) 事業評価のためのチェックリストの大項目を8割以上実施している自治体 【平成21年度】 胃がん：56.5% 肺がん：53.9% 子宮がん：56.5% 乳がん：54.4% 大腸がん：53.5%</p> <p>※なお、平成21(2009)年度調査では、回答の正確性を担保する為に回答基準を平成19(2007)年度調査より厳しく設定しており、前回調査と単純比較はできない。</p> <p>②国の指針に基づくがん検診を実施している市町村の割合 胃がん：97.8% 子宮がん：93.9% 肺がん：92.3% 乳がん：87.9% 大腸がん：97.8% 【平成20年1月1日】</p>	<p>○科学的根拠に基づいたがん検診の検討と推進 ○がん検診の精度管理や費用対効果の検討 ○自治体や医療機関に対するがん検診精度管理に係る研修の実施</p>
がん研究	<p>がんによる死亡者数の減少、がん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持</p>	<p>○研究関連予算額 (参考値) 83億円(厚労省) 151億円(文科省)</p>	<p>○研究関連予算額 (参考値) 61億円(厚労省) 152億円(文科省)</p>	<p>○各分野(基礎医学、治療法、患者支援、情報提供等)の研究の進捗や、係る費用の推移、主要雑誌への掲載状況等、研究内容や進捗に対する理解できる指標の検討</p>

<p>向上を実現するための がん対策に資する研究 をより一層推進してい くこと</p>	<p>98億円（経産省） 【平成18年度】</p>	<p>71億円（経産省） 【平成22年度】</p>	<p>○基礎研究の成果を seeds として、医薬品・ 医療機器の開発を通じ、基礎と臨床の間の「死 の谷」を乗り越え、がん医療の innovation を 起こす研究・開発の強化</p>
---	-------------------------------	-------------------------------	---